

「キャリア形成支援セミナー」 〈報告〉

「キャリア形成支援セミナー」ZOOM同時配信

日時：2020年10月22日（木）16:20～17:50

講師：NPO法人わははネット 理事長 中橋 恵美子 氏

参加人数：28名（教職員）

10月22日（木）に、「キャリア形成支援セミナー」をZOOM同時配信で開催しました。

本セミナーは、徳島大学を代表機関とする令和2年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」において女性研究者の上位職への登用に向けた取り組みに基づいて実施される事業として開催したものです。

講師のNPO法人わははネット 理事長 中橋 恵美子 氏から初めに、NPO法人わははネットの発足から現在までの活動など、香川県での子育ての情報発信、親子の居場所づくり、その他子育てに関する様々な活動・支援についてのお話がありました。

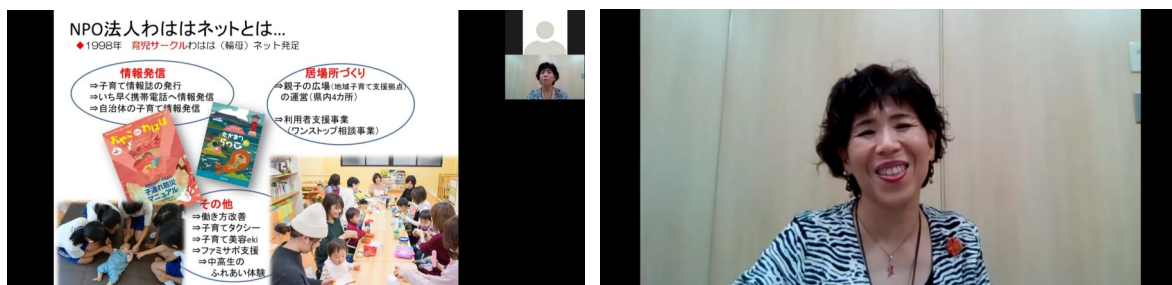
香川県の少子化の現状、少子化の進行と問題の深刻さについて、現代の結婚における現状、平均結婚年齢や未婚率、また年齢における妊娠する力の低下など、それに付随する理想の子ども数に対し、子どもの数が下回る理由などから、現代の少子化につながる原因をわかりやすくお話いただきました。香川県の子育て家庭の約8割は核家族である事、子育て家庭の現状について、男性の育児・女性の育児時間比較、父親の育児時間は出生数と相関関係がある事、アウェイの中での子育てなど、子育ての負担感が大きい社会である事が説明されました。自分を支えてくれる身近な家族や仲間、仕事と家庭の両立を支えてくれる様々な仕組みやサポートをまず知り、孤育て（孤独な子育て）をしない・させない、抱え込まずに相談したり、夫婦と一緒にいろんな人に助けをもらい、利用する事がとても重要であるというアドバイスがありました。男女が共に、また子どもがいてもいなくても、互いに思いやり支え合い、地域の子どもたちを育てていく意識が、すべての人に必要である事を改めて再認識することができ、教職員・学生にとって大変有意義なセミナーとなりました。

アンケートでは、「非常に参考になった」61%、「参考になった」31%という結果でした。

参加者からは「イキイキ社員になろうと思いました。」「興味深い話題が多数あったので、聞きやすくて参考になりました。」「子育て支援の第一線で活躍されている講師から、力強いメッセージを頂きました。」といった声が多く寄せられ、大変有意義なセミナーとなりました。

以下、セミナーについての参加者からの感想（一部抜粋）

- 私は将来のプランの中で子育てもしたいと思っていましたが同時に不安もあったので、それを応援する団体があることや、サポートする体制があることを今回知ることができて良かったです。
- 分かりやすい説明で、数値から現状を把握することができました。
- イクボスという言葉を知りました、育児には職場内の理解が不可欠だと思うので浸透してほしいと思いました。



▲セミナー時ZOOMウェビナーの様子

「キャリア形成支援セミナー」 〈報告〉

「キャリア形成支援セミナー」講演動画配信

日時 : 2020年11月25日 (水) 13:00~14:30
テーマ : 「アメリカのスポーツ界における性的虐待と言語の悪用」
The Language of Harm :What the Nassar Victim Impact Statements
Reveal about Abuse and Accountability
講師 : ジェイミー・アール・エブラムス知的生活副学部長、法律学教授
ブランダイズ・ロースクール ルイビル大学
参加人数 : 7名 (教職員・学生)

11月25日(水)に、「キャリア形成支援セミナー」をZOOM講演動画配信で開催しました。

本セミナーは、徳島大学を代表機関とする令和2年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」において女性研究者の上位職への登用に向けた取り組みに基づいて実施される事業として開催したものです。

講師はブランダイズ・ロースクール ルイビル大学 ジェイミー・アール・エブラムス知的生活副学部長、法律学教授による講演でした。

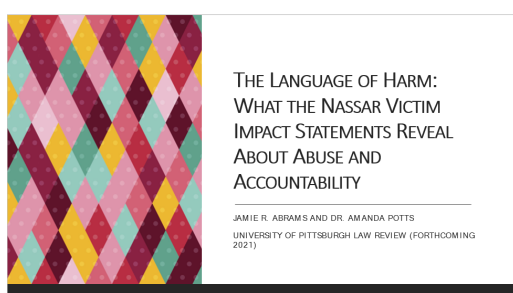
<要旨>

ラリー・ナッサーの刑事判決で法廷に提出された140件以上の被害者のインパクトステートメントを検証している。ラリー・ナッサーは米国体操協会の医師であり、ミシガン州立大学の職員としてエリートアスリート、主に体操選手を治療していた。ナッサーは、ミシガン州で児童ポルノと第一級の違法な性的逸脱行為の罪で有罪を認めた。彼の判決は、被害者が彼の行為の被害及び裏切りを説明するインパクトステートメントを発表したことで、世界的に注目された。コーパスに基づく談話分析を用いて、被害者がナッサーとは何者か(医者、怪物、友人)、ナッサーが何をしたか(虐待、暴行、児童性愛、「治療」)、そして被害者の受けた被害(痛み、傷、裏切り)を検証した。

以下、セミナーについての参加者からの感想(アンケート一部抜粋)

アンケートでは、「非常に参考になった」20%、「参考になった」80%という結果でした。

- 本セミナーについて印象に残った点
 - ・女性が大変な被害にあった上、訴えることが困難だったこと。
 - ・被害者インパクトステートメントの検証、加害者の呼び名の違い。
 - ・法制度が使用している言語と法律用語が一致していない事。
- その他のご意見等
 - ・日本と欧米の法制度、司法裁判制度の違いを今後も勉強してみたい。性的被害者、加害者のケア・支援についても知りたい。



▲ Prof. Jamie R. Abrams